OWNER'S MANUAL

ステレオスピーカーシステム

AM5-III

取扱説明書

この度はAM-5IIIをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、必要なときにご覧になれるよう大切に保管しておくことをおすすめします。

※説明の便宜上、イラストは実物と異なる場合があります。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。
以下の内容に反した使用により損害が発生した場合、当社は責任を負いかねます。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は指をはさまれないように注意)が描かれています。

警告

- ●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。
- ●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
- ●スピーカーコードを熱器具の近くや直射日光のあたるところには近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災の原因となります。
- ●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
- ●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
- ●熱器具の近くや直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。
- ●この製品は、一般屋内用器具です。落下、脱落、焼損、火傷、火災、感電、腐食、変形などの原因となりますので、以下の場所ではご使用にならないでください。
  - ・振動や衝撃の影響を受けるところ
  - ・サウナ風呂などの温度が高くなるところ
  - ・腐食性ガスや可燃性ガス、粉じんの影響を受けるところ
  - ・湿度の高いところ
- ●シンナーやベンジンなどの揮発性の薬品やクレンザーなどは、変色や傷を付ける原因となりますので使用しないでください。

注意

- ●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
- ●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業時のけがや事故には十分ご注意ください。
- ●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
- ●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
- ●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。
- ●ポートの中に手や体の一部を入れないでください。けがの原因となります。

目　次

始　め　に

AM-5Ⅲは、通常のスピーカーシステムより多くの利点を持ったシステムです。

・お部屋や聴く音量によって直接音と間接音の割合を自由に変えることができます。

・ベースモジュールは、置き場所を選ばず、じゃまにならないところへ置くことができるので、ごくわずかのスペース（サテライトスピーカーを設置するスペース）しか必要とせずに、以前はお部屋の大部分を占領するくらいのスピーカーシステムでしか得られなかったHi-Fiサウンドを実現します。

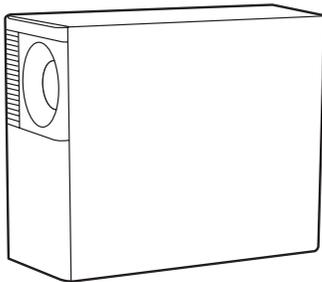
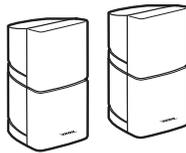
開梱と内容物について

付属品を確認してください

もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。また、箱や梱包材は、後日の修理メンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。

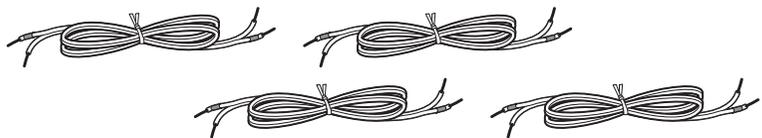
⚠警告

●ベースモジュールの重量は、約9kgあります。持ち上げる際ケガなどしなしように気をつけてください。

●製品を包んでいるビニール袋は、お子様の手の届かないところに保存するか処分してください。間違えてかぶると窒息する危険があります。

ベースモジュール　1台

サテライトスピーカー　2台

ベースモジュール用ゴム足　4個

スピーカーコード（6m）４本

⚠注意

製品のゴム足について

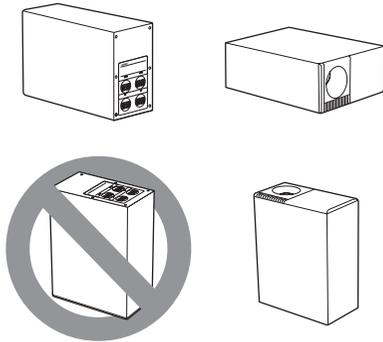
●ゴム足は素材の性質から、設置面の塗料によっては、移行または汚染を示す可能性があります。事前にご確認のうえご使用ください。

●付属のゴム足は高摩擦性を有している分、塗装面との接触面に密着しやすい性質を持っております。接触面の一部を剥がしてしまう可能性も有りますので、事前にご確認のうえご使用ください。

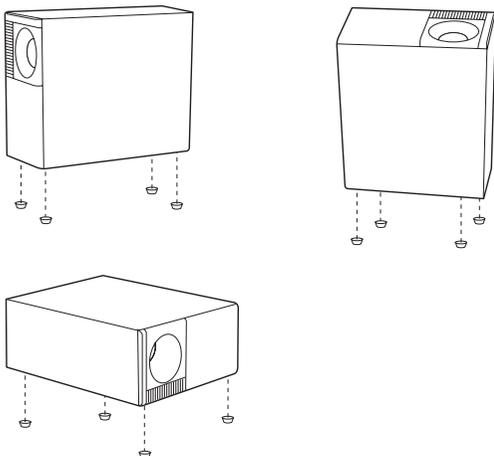
スピーカーシステムの置き方について

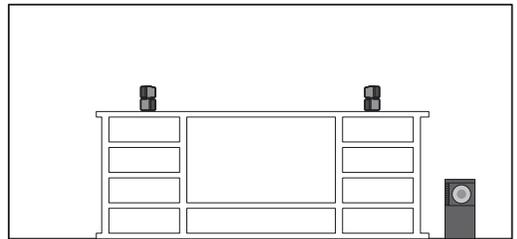
1. ベースモジュールの置き方について

・ベースモジュールは、図のように縦にしても横にしてもかまいません。また、ベースモジュールはお部屋の中であれば、テーブルやベッドの下、ソファーの後ろあるいは、カーテンの陰など見えないところに置くこともできます。

⚠注意

●開口部（低音エネルギーの出てくる穴）は絶対ふさがないようにしてください。開口部を壁などに向ける場合は、少なくとも5cm以上はなしてください。

●ベースモジュールは防磁されておりません。テレビやモニターなどから60cm以上離して設置してください。

・ベースモジュールを床に設置するときには、共振防止のため付属のベースモジュール用ゴム足を貼り付けてお使いになることをおすすめいたします。

2. サテライトスピーカーの設置場所について

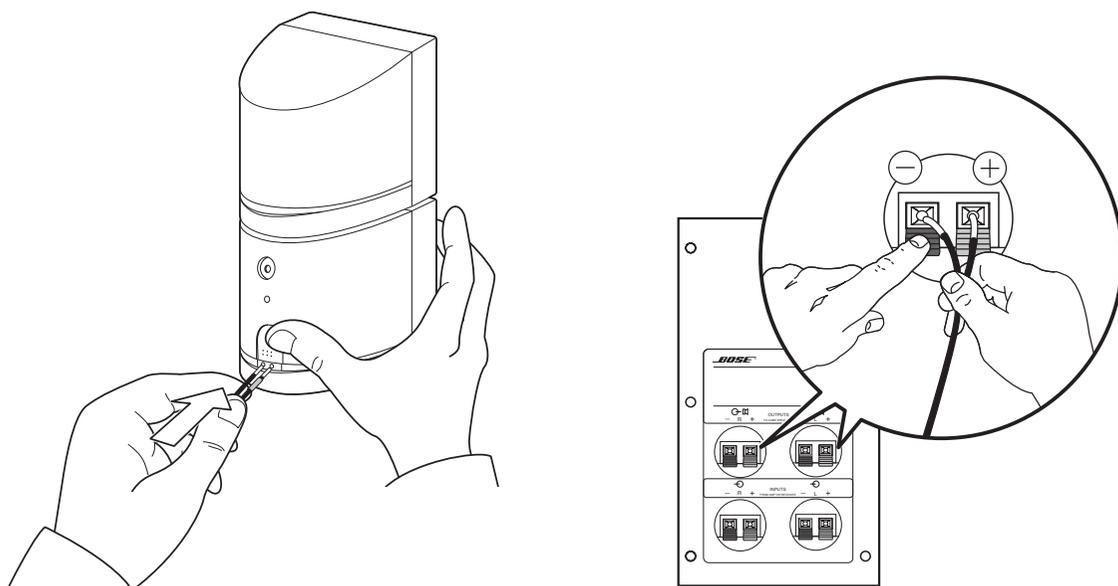
・サテライトスピーカーは直接音と間接音のバランスを効果的にコントロールできるように、サテライトスピーカーを左右に回転させることができます。お部屋の状況に合わせて、また好みに応じてセッティングを選んでください。また、サテライトスピーカーは低磁束漏洩型なのでテレビやモニターの近くで使用することも可能です。

3. 付属のスピーカーコードについて

・4本のスピーカーコードが付属されています。2本がベースモジュールとサテライトスピーカーを接続するためのもので、残りの2本がお手持ちのアンプとベースモジュールを接続するためのものです。

・スピーカーコードには⊕（プラス）と⊖（マイナス）を見分けるための印がついています。文字が書かれていて、先端に赤いスリーブがついているほうを⊕として使用します。ベースモジュールの入出力端子、サテライトスピーカーの入力端子ともに赤いほうが⊕になっています。

サテライトスピーカーとベースモジュールを接続します

1. まずベースモジュールのLch側にサテライトスピーカーを接続します。
2. サテライトスピーカーの入力端子の上の部分を図のように押し込みながらスピーカーコードを奥まで差し込みます。
3. コードの先端がしっかり差し込まれていることを確認して押している指を離します。
4. サテライトスピーカーに接続したスピーカーコードの反対側を、ベースモジュール背面入出力端子部のOUTPUT TO CUBE SPEAKERSと書かれたL側に接続します。
5. 同様に、ベースモジュールのRch側にサテライトスピーカーを接続します。

⚠注意 サテライトスピーカーを直接アンプへ接続しないでください。スピーカーを保護する回路は、ベースモジュール内にあるのでアンプとサテライトスピーカーを直接接続すると、サテライト用の保護回路がはたらかず、スピーカーを破損させる危険があります。

スピーカーコードには⊕（プラス）と⊖（マイナス）を見分けるための印がついています。文字が書かれていて、先端に赤いスリーブがついているほうを⊕として使用します。ベースモジュールの入出力端子、サテライトスピーカーの入力端子ともに赤いほうが⊕になっています。

スピーカーシステムとアンプを接続します

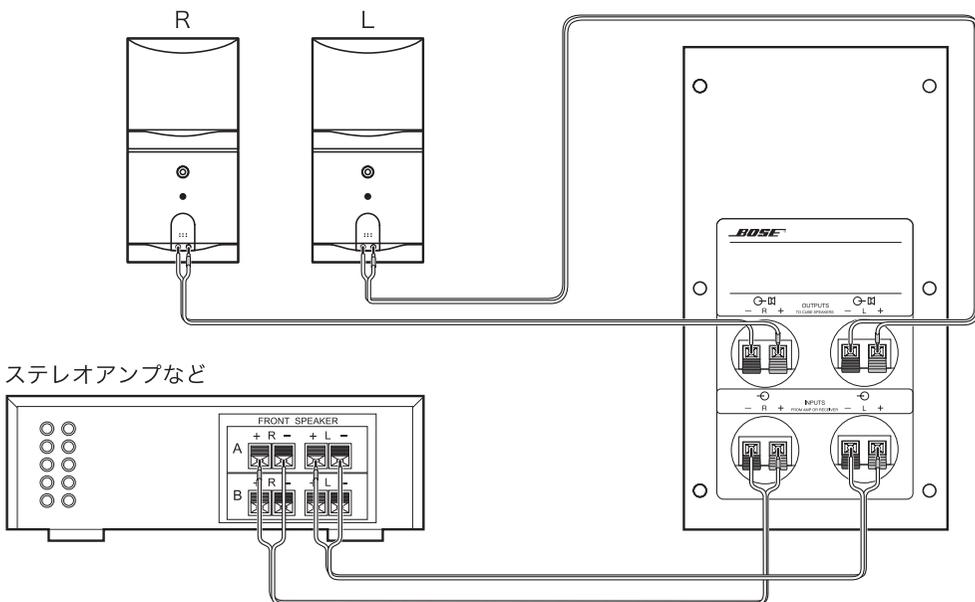
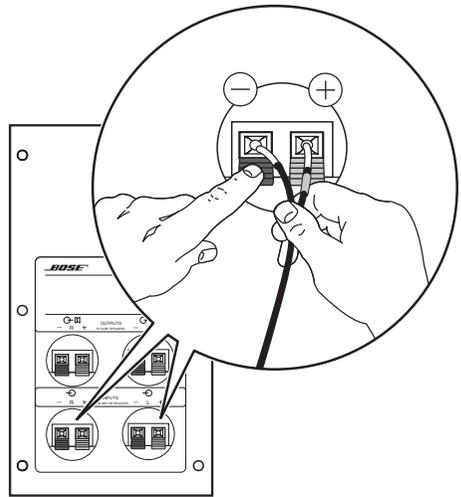
●ご注意

事故防止のため、アンプなどの電源を外した状態で配線作業を行ってください。

1. まず、ベースモジュールのLch側にアンプを接続します。
2. ベースモジュール背面入出力端子のINPUTS FROM AMP OR RECEIVERと書かれたL側にスピーカーコードを接続します。
3. ベースモジュール背面入力端子のL側に接続したスピーカーコードの反対側をアンプのLch出力端子に接続します。
4. 同様に、ベースモジュールのRch側にアンプを接続します。

⚠注意

各端子に接続したコードの芯の部分が、他のコードの芯の部分やアンプの金属部分に接触しないように気をつけてください。接触しているとアンプのショート事故が起こりアンプを破損させることがあります。

スピーカーコードには⊕（プラス）と⊖（マイナス）を見分けるための印がついています。文字が書かれていて、先端に赤いスリーブがついているほうを⊕として使用します。ベースモジュールの入出力端子、サテライトスピーカーの入力端子ともに赤いほうが⊕になっています。

スピーカーシステムが正しくつながれているか調べてみましょう

接続の確認をします

1. アンプ、ベースモジュール、サテライトスピーカーの接続すべてをもう一度確認してください。部屋のスピーカーの配置に従い、スピーカーコードがすべて適切な端子に接続されていることを確認します。
2. すべてのスピーカーコードの極性（⊕、⊖）が間違いなく接続されていることを確認します。

⚠注意　アンプが破損する可能性がありますから、スピーカーコードのショートには十分ご注意ください。

お手持ちのアンプでバランス調整ができる場合は、
下記のテスト方法でスピーカーシステムが正しく動作しているか確認してください。

1. アンプのバランス調整を左にまわします。サテライトスピーカーの接続が正しければ左のサテライトスピーカーからの音が大きくなります。右のサテライトスピーカーから聞こえる音はかなり小さくなります。
2. アンプのバランス調整を右にまわします。サテライトスピーカーの接続が正しければ右のサテライトスピーカーからの音が大きくなります。左のサテライトスピーカーから聞こえる音はかなり小さくなります。
3. アンプのバランス調整を中央にします。音楽を低音を強調した状態で再生し、バランス調整を左右に動かしてください。接続が正しければ、バランス調整が中央のときに聞こえる低音は、左右に動かしたときと同じか、より大きくなります。小さく聞こえるときは、前ページの手順の接続を確認してください。特に各スピーカーの⊕、⊖の接続にまちがいがないかを注意して調べてください。
4. アンプのバランス調整を中央に戻します。

よりよい音楽再生のために

●ベースモジュールについて

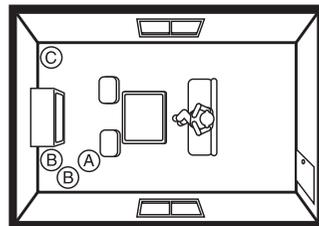
ベースモジュールは、原則として同一音場内であればどこに設置しても音の方向性を感じさせない設計になっています。ただし部屋の構造上の問題で多少方向性が感じられる場合には、開口部の方向やベースモジュールの位置を変えて、最良のセッティングポイントを選んでください。

※ベースモジュールは設置場所によって低音のレベルを調整することができます。一般的に、部屋の壁やコーナーに近づけておいた場合に一番効率良く低音が放出され、部屋の中心に近づけるにしたがって、低音を押さえることができます。

⚠注意　ベースモジュール内部のスピーカーは、防磁処理が施されていませんので、テレビやモニターなどに近づけないでください。近づけると、画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分（約60cm以上）離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。

低音が出すぎる場合
壁やコーナーから離していきます。

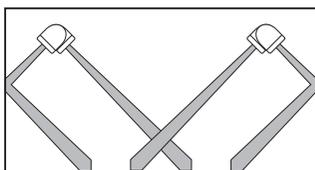
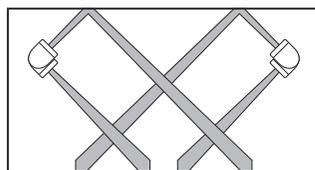
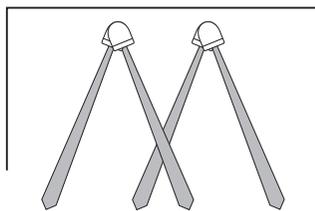
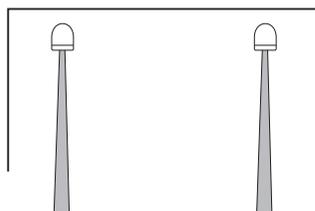
一般に図のようにAよりはB、BよりはCの位置に設置したほうが、低音が豊かに感じられます。このとき、低音のエネルギーは開口部から放出されますので、この部分を塞がないよう、壁などから少なくとも5cm以上離してください。

低音の量感を出したい場合
壁やコーナーに近づけていきます。

●サテライトスピーカーについて

・ サテライトスピーカーの間隔は1〜4.5mの範囲でご使用ください。一般的な広さの部屋では1.8〜3.6m離すと最適なステレオ効果が得られます。

・ 臨場感あふれるサウンドは直接音と間接音のバランスで生まれます。図を参考に好みの効果が得られるようにサテライトスピーカーの向きをいろいろ試してください。

⚠注意

サテライトスピーカーは、防磁型になっていますのでテレビやモニターなどに近づけても、画面に色ムラなど影響が生じにくくなっていますが、まれに画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。

左右の広がり感と音像の定位を両立させる設置方法。

奥行き感と音像の定位を両立させる設置方法。

直接音重視。スタジオモニター的な使い方の設置方法。

和室など間接音成分が得にくい部屋での設置方法。

室内音響について

部屋の状況によってシステムの音質がかわってきます。 例えば

・ 装飾家具やしきつめタイプのカーペットなど音を吸収する家具などが多い部屋は、音の高域成分が低減することがあります。その場合はアンプのトレブル調整で高域成分を増やしてください。

・ 音を吸収する家具が少なすぎる部屋では高域成分が多くなることがあります。アンプのトレブル調整で高域成分を減らしてください。

・ 低域成分の調整はアンプのバス調整で行います。ベースモジュールを壁や角に近づけたり離したりすることでも調整できます。

・ 通常音響効果はアンプのトーンコントロールで可能です。ただし、トーンコントロールを最大にして使用するとより大きな電力が必要になりアンプに負荷がかかって破損することもあるので注意が必要です。

スピーカーシステムの保護回路について

自動復帰型保護回路について

AM-5IIIには、安全限界を超えるような過大入力あるいは何らかの異常入力が連続して加えられますと、自動的に出力レベルを下げる保護回路が内蔵されています。この回路はまた、サテライトスピーカーへの送り出し信号に対しても働くよう設計されており、スピーカーシステムを保護します。

●急に再生音が小さくなったら

音楽再生中、急に音が小さくなっても故障ではありません。保護回路が働くことでスピーカーへの負担を低減しています。異常原因が取り除かれた後、自動的に復帰します。復帰に要する時間は、その時の使用条件により異なります。

⚠注意

保護回路が働いた場合、その原因をただちに調べ、異常を取り除いてください。アンプの出力を上げ過ぎている場合にはボリュームを絞り、原因がよくわからないときにはアンプの電源を切って、お買い上げの販売店、または修理担当部門までご連絡ください。そのままの状態で使用を続けることは絶対におやめください。

●原因

保護回路が働く原因としては次のようなことが考えられます。

・ スピーカーシステムへの過大入力

・ アンプの出力が歪んでいる
 (a)アンプが限界を超えてドライブされている
 (b)アンプの故障

・ アンプDC (直流電流) 洩れ

スピーカーシステムのお手入れについて

キャビネットの汚れを落とす場合

・汚れやホコリは、柔らかい布でから拭きしてください。から拭きをする場合は、傷を付けないようにご注意ください。

・汚れがひどいときには、中性洗剤を薄めた水にやわらかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、やわらかい布でから拭きしてください。

・アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品はキャビネットの表面をいためますので、ご使用にならないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

・グリルの背後にはドライバーがあるため、適度に手入れをしないとスピーカーが破損することがあります。必要に応じてゴミを吸いとってください。

故障かな？と思ったら

原　因	処　置
片方のサテライトスピーカーから音がでない。	・アンプの電源を切ります。サテライトスピーカーとベースモジュールの接続とベースモジュールとアンプの接続を確認してください。問題ない場合はアンプに接続されたスピーカーコードを一度抜いてください。例えば右のサテライトスピーカーから音が出ない場合は、対応するコードをアンプの「左」に接続してアンプのバランス調整を「左」にまわし、電源を入れます。左のサテライトスピーカーから音が出ない場合は、対応するコードをアンプの「右」に接続してアンプのバランス調整を「右」にまわし、電源を入れます。これでサテライトスピーカーから音が出る場合はアンプの不具合が考えられます。疑いのあるチャンネルにスピーカーシステムを接続しないでください。
AM-5Ⅲシステムが動作しない。または音が歪む。	・アンプの電源を切ってAM-5Ⅲの接続をはずし正しく動作する別のアンプに接続してください。AM-5Ⅲが正しく動作した場合はアンプの不具合が考えられます。この場合アンプに関連するすべてのヒューズをチェックしてください（アンプの取扱説明書参照）。ヒューズが再度とんだ場合は電器店へ相談してください。

※アンプが正常に動作し、かつスピーカーシステムから音が出ない場合には、ただちに使用をやめ、お近くの販売店または弊社修理担当部門までご連絡ください。

仕　様

●総　合

方　　　　　　式	アクースティマス
インピーダンス	6Ω
付　　属　　品	ゴム足：4個 スピーカーコード（6m）：4本

●サテライトスピーカー

ユ　ニ　ッ　ト	6.0cmドライバー×2（1本）
防　磁　方　式	キャンセリング・マグネット、シールド方式併用
外　形　寸　法	78（W）×157（H）×104（D）mm
質　　　　　量	1.1 kg（1本）

●ベースモジュール

ユ　ニ　ッ　ト	13cmウーファー×2
外　形　寸　法	192（W）×358（H）×485（D）mm
質　　　　　量	9.1 kg

お問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせ先
ボーズ株式会社　サービスセンター
お客様専用ナビダイヤル 0570−080−023
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-1124へおかけください。
〒206-0035 東京都多摩市唐木田1-53-9 唐木田センタービル

製品等のお問い合わせ先
ボーズ株式会社　ユーザーサポートセンター
お客様専用ナビダイヤル 0570−080−021
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-0955へおかけください。

保　証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

ボーズ株式会社 http://www.bose.co.jp/
〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-3 渋谷YTビル

● 仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
● 弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1135-M
11・11　(B)